

# ヨコモ PROタイヤウォーマー 取扱説明書

この度は、ヨコモ「PROタイヤウォーマー」をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。  
ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読み頂き、正しい使用方法でご愛用下さい。

## 入力電源の接続

ミノムシクリップを安定化電源 (DC12V1.4A以上) 又は、バッテリーに接続します。  
※ 入力電源に7.2Vバッテリーを使用した場合の最高ウォーム温度は約45℃です。  
7.2Vパックバッテリーを本体に内蔵させる事が出来ます。本体側面の「BATTERY」表示部分のフタを止めているネジ2本をプラスドライバーで外し、本体にバッテリーを入れます。本体にバッテリーが直接接触するとショートする危険性があるので、必ずパックバッテリーをご使用下さい。又、バッテリーを使用する際は、ミノムシクリップを、使用するバッテリーのコネクターに合わせて加工して下さい。

## ヒートカップの装着

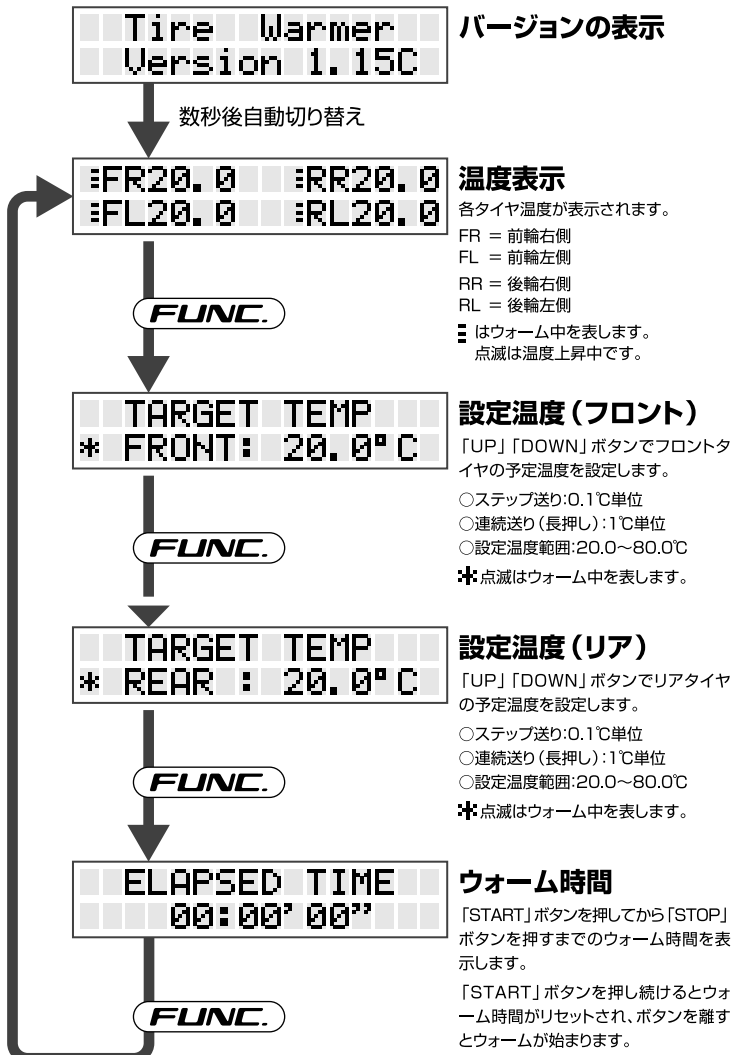


- ※ヒートカップをタイヤに装着する前に、ヒートカップのカバー部と金属部をゴム系接着剤で接着しておく事を推奨します。
- ※ヒートカップの金属部は角が鋭いので、ケガをしないように注意して下さい。
- ※ウォーム中はヒートカップ部分が高温になるので、火傷しないように注意して下さい。

ヒートカップをタイヤに装着します (装着出来るタイヤ径の最大は64mm)。  
FR=前輪右側、FL=前輪左側、RR=後輪右側、RL=後輪左側になるよう、間違えずに装着して下さい。また、ウォーム温度にムラが出ないように、ヒートカップの奥まで、しっかりとタイヤを入れて下さい。

## 表示・操作説明

接続が終わったら、「POWER」ボタンを「ON」にして電源を入れます。  
バージョンが表示され、数秒で温度表示に切り替わります。



## START・STOP

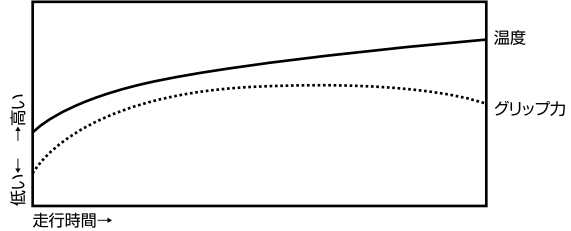
設定が終わったら「START」ボタンを押してウォームを始めます。どの画面からでもスタート出来ます。また、ウォーム中でも、画面の切り替えや設定温度を変更する事が出来ます。

「STOP」ボタンを押すと、ウォームが中止されます。  
ウォーム中は「START」ランプが点灯し、ウォーム時間がカウントされます。「FRONT」「REAR」ランプは、ウォーム状況を表します。点灯中は温度が上昇し、点滅中は微調整中、消灯時は設定温度に到達している事を示します。  
使用後は必ず「POWER」を「OFF」にして下さい。

## アドバイス

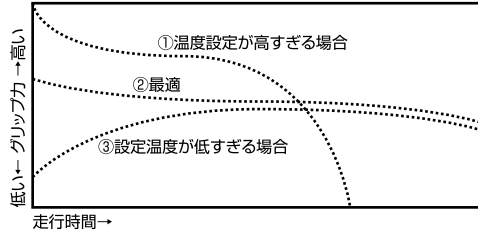
タイヤウォーマーはタイヤの性能を最大限発揮させる為、タイヤ温度をコントロールする為に使用します。しかし、使用方法にはタイヤの特性や路面状況によって、様々なノウハウがあります。タイヤウォーマーを活用し最高の効果を発揮させる為には、皆様が実際にテストを繰り返し、最適な方法を実践から得て頂く必要があります。

タイヤ温度とグリップ力を示したグラフ (例)



上記の表を見ると、タイヤの温度とグリップには密接な関係がある事が分かります。走行中のタイヤ温度は徐々に上がり、グリップも温度の上昇に合わせて上がります。その特性から、タイヤウォーマーでタイヤをある一定の温度まで温めてから走行すると、初めから最高のグリップを得る事が可能になります。

タイヤウォーマーを活用した際のグリップ力 (例)



- ① 温めすぎると、途中で熱ダレ (グリップ力を維持出来ない) することがあります。
  - ② 最適な温度に設定出来た場合、初めから高いグリップ力を発揮出来、後半まで持続する事が出来ます。
  - ③ 設定温度が低すぎると、タイヤウォーマーの効果を全く発揮出来ません。
- ※ タイヤの種類によって、最適な温度は異なります。また、インナースポンジの種類によっても異なる場合があります。
  - ※ タイヤウォーマーは路面温度が低いときに、特に有効です。又、路面温度によってタイヤの温度変化が異なります。
  - ※ ウォーム時間によってタイヤの保温力が異なり、温度変化が異なります。
  - ※ ヒートカップをタイヤから外すと、急激に温度が低下します。ヒートカップを外してから走行するまでの時間も計算に入れるとよいでしょう。
  - ※ タイヤトラクション剤を使用する場合、タイヤを暖める事で、浸透力を高める効果もあります。

## ヨコモ&ソレックス製タイヤの設定温度の目安

ヨコモ	Mコンパウンド	ウォーマーの効果はほとんど無し
	Bコンパウンド	
	GSコンパウンド	
	Gコンパウンド	25~30℃
	GFコンパウンド	30~35℃
	GHコンパウンド	35~40℃
ソレックス	20R	ウォーマーの効果はほとんど無し
	24R	
	28R	20~25℃
	32R	25~30℃
	36R	30~35℃
	40R	35~40℃